

日本国内での

災害支援活動を通して

団体の知名度アップ

職員の知見の幅がアップ

国内ネットワークの強化

事務局機能強化の必要性への気づき

結果論として

目的ではなく事後的に理解される



但し、これらはあくまで可能性であって組織強化・能力向上に結びつけられるか否かは団体次第

また、中小のNGOは、必ずしも組織強化・能力向上を目指す団体ばかりではないことにも注意が必要。

- ・管理(事務局)機能の強化よりも現場重視を貫きたい
- ・無機的な組織化より個人レベルの「想い」を重視したい

学びと成長



From
the People of Japan

<発行>
外務省
国際協力局 民間援助連携室
〒100-8919
東京都千代田区霞ヶ関2-2-1
TEL: 03-5501-8361(直通)
FAX: 03-5501-8360
<http://www.mofa.go.jp>



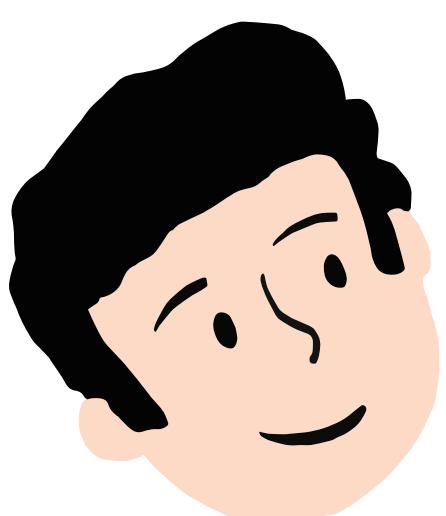
<実施>
公益社団法人
青年海外協力協会(JOCA)
〒399-4112
長野県駒ヶ根市中央16-7
TEL: 0265-98-0102(代表)
FAX: 0265-98-0838
<http://www.joca.or.jp>



日本国内における防災・災害支援活動と国際協力NGOの能力強化

Strengthening the Capabilities of Japanese NGOs Engaged in International Cooperation.
Lessons Learnt from Disaster Prevention and Relief Activities within the Japanese Borders.

NGOの組織強化・能力向上のために、中長期的な視野に立った様々な取組みがなされています。一方、突然の自然災害に直面し、国際協力NGOが国内でも積極的に支援活動を行うことが増えていますが、多くが緊急かつ一時的な活動であるために、組織としての学びや成長に繋げることは容易ではありません。



From
the People of Japan

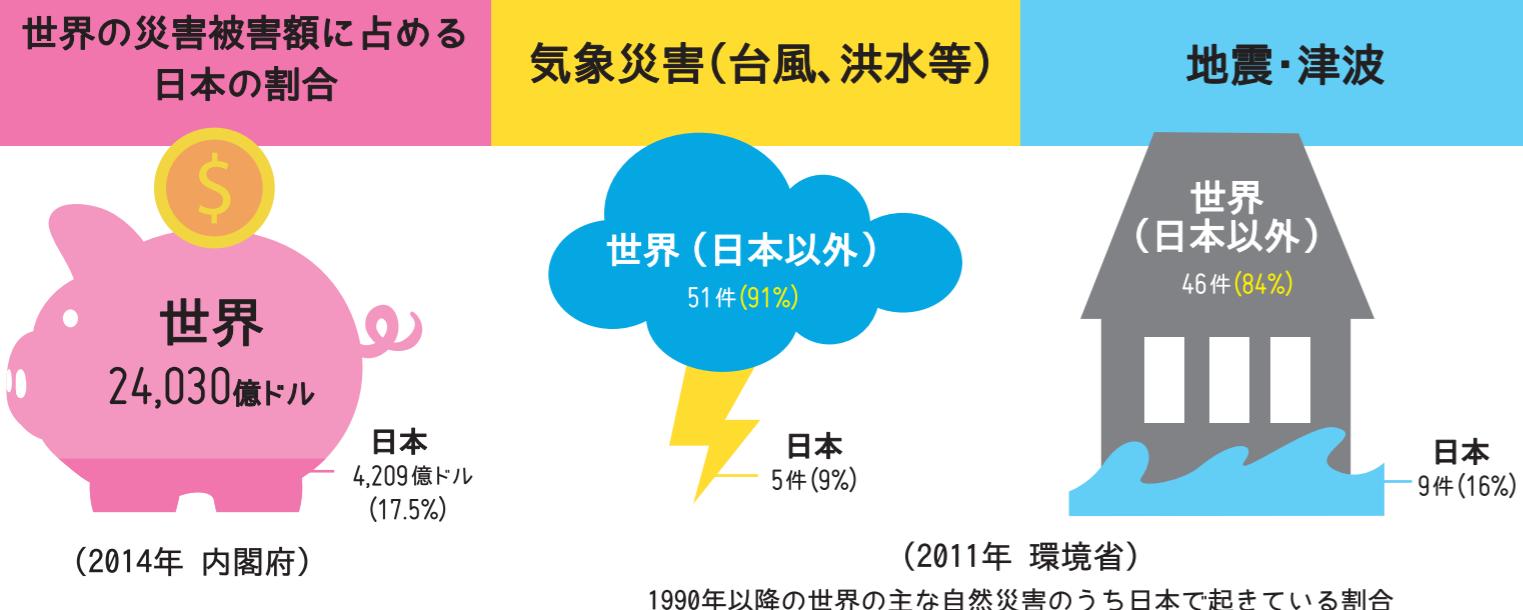
令和元年度外務省NGO研究会





背景

「災害大国」と呼ばれる我が国で、近年特に大規模災害が頻発しています。そして国際協力NGOに対しても、その力を国内の災害現場で被災者支援のために発揮してくれることに大きな期待があります。ひとつひとつの力は小さくとも、それらを結集することでより大きな力にしていく。それを可能にするのは「学び」であり、その「学び」は巡り巡って国際協力NGOにもプラスの効果をもたらすと考えられます。



目的

国際協力NGOの能力強化を推進するために
どのようなノウハウがあるか、
具体的で行動に移しやすいポイントを
明らかにして提言します。

※ 個人であれ組織であれ、様々な活動から学び成長に繋げることが可能です。
但し、そのためには少しの工夫やノウハウ、努力も必要です。本調査・研究では、国際協力NGOに対する期待が高まっているものの、活動分野としては比較的新しくまた突発性・緊急性を伴うことが多い災害対応を事例として取り上げています。

NGOが抱える様々な課題



日本のNGOで多数を占めるのは中小の団体

内的な課題

- ・マネジメント能力の不足
- ・対外的なアピール力の不足
- ・財政基盤の弱さ
- ・人材の確保 / 維持の難しさ



外的な課題

- ・社会的な認知不足(欧米に比べて)
- ・行政サービスの安価な代替役との理解
- ・組織強化のための支援不足
- ・市民社会の支援が大手NGOや国際機関に集中

課題解決

現場志向の団体が多く、管理(事務局)機能の強化に振り向けられるリソースは限られます。
そんな中で実施される災害支援をその後の活動や組織に役立てるノウハウとは...。



ヒトから組織へ

個人の得た知識を
組織レベルに落とし込む

利用可能な形の 組織記憶化

- ・関係者による「振り返り」
- ・組織記憶のデータベース化

維持・継続

災害支援は緊急対応

平常時の コミュニケーションが大事

- ・専任でなくとも担当窓口を明確化
- ・平常時にもそれを維持

仕組みとして 内在化

意思決定プロセスの明確化・透明化

強力なリーダーシップ (鶴の一聲)ではなく

- ・マニュアル、手順書などの整備
- ・事前の緊急対応シミュレーション